

# 随時記者発表

項 目	(速報値) 咽頭結膜熱及びA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について (警報)				
区 分 等	発 表	月	日	時 分	説 明 者
	資料配付	2月	1日	15時00分	
配 付 資 料	別紙のとおり				
発 表 要 旨	<p>浦河保健所管内で咽頭結膜熱及び A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行が疑われることから、警報を発令しますのでお知らせします。</p> <p>なお、インフルエンザについては、警報を解除しています。</p>				
報 道 (取 材) に 当 た っ て の お 願 い	<p>住民に対し、手洗い、咳（せき）エチケットの励行、マスクの着用、十分な栄養や休養をとり抵抗力をつけるなど、感染予防の呼びかけをお願いします。</p>				
担 当	<p>北海道日高振興局保健環境部保健行政室（浦河保健所） 健康推進課長 今井 道子 電話 0146-22-3071</p>				

# (速報値) 咽頭結膜熱の流行について (警報)

令和6年(2024年)2月1日(木) 15時00分

北海道日高振興局保健環境部保健行政室  
(北海道浦河保健所)  
電話：0146-22-3071

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和6年(2024年)第4週(令和6年(2024年)1月22日～1月28日)において、浦河保健所管内の定点あたりの咽頭結膜熱患者報告数が、警報基準である3人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、浦河保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

## 記

### 1 咽頭結膜熱の感染予防

- ・流水と石けんによる手洗い、うがいをしましょう。
- ・患者との密接な接触を避けましょう。
- ・プールにおいては、水泳前後にシャワーでよく体を洗い流すことが大切です。

### 2 咽頭結膜熱とは

咽頭結膜熱はアデノウイルスによる感染症で、プールを介して感染する場合は、ウイルスが含まれた水が結膜に直接侵入して感染し、集団での発生が見られることからプール熱とも言われます。

患者の使用したタオルの共用や手指を介した接触感染、飛沫感染でも発症します。

咽頭結膜熱は、発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭痛、結膜の充血、目の痛みや涙が流れる、光がまぶしく感じる、眼脂(目やに)等の症状が3～5日続きます。

これらの眼の症状は一般的に、片眼から始まり、その後もう一方の眼にも出現します。

年齢別には5歳以下に多くみられます。

季節によらず、年間を通じて発生しますが、6月頃から徐々に増えはじめ7～8月にピークになります。

学校保健安全法施行規則では、主要症状が消退した後2日を経過するまで出席停止となります。

### 3 その他

#### (1) 最近の5週における定点あたり報告数(速報値)

(表示は、「患者/定点」単位：人)

	第52週 (12/25～12/31)	第1週 (1/1～1/7)	第2週 (1/8～1/14)	第3週 (1/15～1/21)	第4週 (1/22～1/28)
浦河管内	1.00	4.00	2.00	0.00	3.00
全道	6.09	3.81	3.37	3.34	—
全国	2.65	1.46	1.44	1.28	—

※第4週の患者報告数は速報値。

全道の咽頭結膜熱流行状況は、北海道感染症情報センターのホームページでご覧になれます。

(URL: <http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)

#### (2) 咽頭結膜熱の流行開始・注意報・警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診した咽頭結膜熱患者が、国立感染症研究所において設定した注意報・警報の発令基準値を超えた場合に発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

<咽頭結膜熱の警報レベル>

	警報レベル	
	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数(人)	3	1

# (速報値) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について (警報)

令和6年(2024年)2月1日(木) 15時00分

北海道浦河保健所  
(北海道日高振興局保健環境部保健行政室)  
電話: 0146-22-3071

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和6年(2024年)第4週(令和6年(2024年)1月22日~1月28日)において、浦河保健所管内の定点あたりのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数が、警報基準である8人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、浦河保健所管内において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

## 記

### 1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防

- 患者との濃厚接触をさけることが最も重要とされています。保育施設など集団生活の場では、熱やのどの痛みがある児との接触を避ける、症状があれば可能な限り休ませるなどの対策が必要です。
- 手洗いやうがいがあります。
- おもちゃなどの口に入る器具や食器にも注意が必要です。

### 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

細菌の一種であるA群溶血性レンサ球菌がのどに感染しておこる感染症で、接触感染や飛沫感染を起こします。のどの腫れ、痛み、発熱、首のリンパ節の腫れなどの症状のほか、発疹を伴う「猩紅熱」を引き起こしたり、数週間後になって心臓弁膜症の原因となる「リウマチ熱」や腎臓をおかす「溶連菌感染後急性糸球体腎炎」などを引き起こすことがあります。

適切な抗菌薬を一定期間使用することは、特にリウマチ熱の予防に有効であるとされています。

年齢別にみると、5歳~15歳が最も多く、幼稚園や保育所、学校などの集団生活の場での感染が多くみられます。

春~夏にかけての感染もみられますが、流行のピークは冬です。

### 3 その他

#### (1) 最近5週における定点医療機関からのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告状況

(表示は、「患者/定点」単位:人)

	第52週 (12/25~12/31)	第1週 (1/1~1/7)	第2週 (1/8~1/14)	第3週 (1/15~1/21)	第4週 (1/22~1/28)
浦河保健所	10.00	4.00	4.00	2.00	11.00
全道	5.67	3.34	4.20	6.27	—
全国	3.82	1.74	2.83	4.28	—

※第4週の患者報告数は速報値。

全道のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎流行状況は、北海道感染症情報センターのホームページで御覧になれます。(URL: <http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)

#### (2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診したA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者数が、国立感染症研究所において設定した注意報・警報の発令基準値を超えた場合に発令します。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報レベル>

	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数(人)	8	4